

カナダで考えたお金のこと

千葉県・市川中学校 3年 石村 瑞季

「CAR WASHING!」「CAR WASHING!」

この夏、突き刺すような日差しの下、カナダ・バンクーバー島の小さな街ナナイモの路上で、私は仲間たちとCAR WASHと書いた看板を掲げ、目の前を通る車に向かって大声を張り上げていました。

自分で働いて、他人からお金を貰^{もら}う。それは私にとって初めての経験でした。今までも、家の手伝いをして家族からお小遣いを貰うことは何度もあったけれど、見ず知らずの人から労働の報酬として貰う初めてのお金。ただし、これはアルバイトではありません。私が参加したカナダでの語学研修の一環で、参加者みんなで洗車をして、集めたお金を施設に寄付することが目的です。実際の洗車作業は、たった数時間の活動でしたが、どんな施設へ寄付を贈るかという話し合いから、呼び込みのための看板作りなど、仲間と一から考えたものです。呼び込みの場所が悪いのか、最初はなかなか車が止まってくれずみんなで途方に暮れたり、かと思えば一度に何台も来てしまい、人手が追いつかずあわてたりなど、お金を集めるのは予想以上に大変なものでした。そうして集めたお金は255ドル77セント！日本円にして2万1,000円ほど。この金額が多いか少ないかはわからないけれど、そんなことは問題ではありませんでした。自分たちで稼いだお金。その事実が、この金額を実際より、もっともっと高いものを感じさせていたのです。

もちろんそれまでも赤い羽根や緑の羽根募金など、寄付をしたことは何度もありました。しかしそれは親から貰ったお金であって、自分で働いて得たお金ではありませんでした。同じ寄付で全く違う。自分たちで作出したお金だからこそ、寄付した先でどのように役立つのか気になるし、無駄に使われないようにと強く願う。よく選挙の時の街頭インタビューで、税金の使い道が気になる・無駄使いをやめて欲しいと言う人がいますが、その人たちの気持ちが今の私にならよく

わかります。自分で稼いでみて初めて気がついたお金の貴重さ。

この語学研修中には他にもお金に関して、色々と考えさせられたことがあります。そのひとつが為替^{かわせ}レートです。

ニュースなどでよく耳にしていた言葉でしたが、これまでは自分とあまり関係のないことであったため気にも留めませんでした。何度か家族で海外旅行をしたこともありましたが、お金のことはすべて親まかせだったからです。しかし今回は違いました。両親に貰った5万円分のカナダドルで17日間を過ごさなければなりません。お金が足りなくなっても、頂戴^{ちょうだい}と頼れる人のいない生活。朝昼晩の食事は基本的にホームステイ先で準備してもらえましたが、自由時間の飲食代やお土産代など、常に日本円だといくらになるのか、日本でいつも買っている値段と比べて安いか高いか、これを買ってしまっても帰国するまでお金が足りるかなど色々と考えながらの生活を体験して、為替レートというものがぐっと身近なものになった気がします。そういえば祖母から、父が学生時代にアメリカに留学していた時は、1ドルが250円で、日本円にしたらかなりの金額を送金しても、父が引き出す時にはたいした金額にもならず大変だったと聞いたことがあります。もし、今もそのレートだったらと思うとぞっとします。

現在の円高は、カナダ滞在中の私にとっては正直とてもありがたいものですが、円高はプラスの面だけではなく、輸出に頼る企業の経営を圧迫していることや、日本経済にとってもあまり喜ばしいことではないことなどのニュースにも目がいくようになりました。立場が違うと、同じ1ドルや100円の価値が大きく違ってくると実感させられたからです。

お金とは本当に不思議なものです。使う人の立場や考え方によって変化し続けるお金の価値。でもそれは、自分次第でいくらでもお金の価値を変えられるということかもしれません。

この語学研修には、かなりの費用もかかりました。そのかかった金額を価値あるものにできるかは、これからの私次第だということです。

